

2月23日

殉教者主教ポリカーブ

Πολύκαρπος

(70 頃～155 頃)

～12 弟子の直接の弟子～

<人名事典などでの別表記：ポリュカルポス>

ポリカーブは、現在のトルコの西海岸にあたるスミルナの主教でした。12 弟子であったのヨハネの直接の弟子だったという伝承があり、使徒教父の一人とも言われます。エイレナイオスは、若いころポリカーブと話した時に、ヨハネやイエスの目撃者と出会ったことを聞かされたそうです。

また 107 年にアンティオキアのイグナティオスが処刑されるためローマに護送される途中、ポリカーブは彼を温かく迎えたといわれます。

ポリカーブ自身は手紙による宣教をしていましたが、現存するのはフィリピ教会にあてたものだけです。しかしその文面からは、誰に対しても憐れみの心を持ち、迷った人たちを正しい道に連れ戻そうとする彼の姿が見られます。

155 年頃、ポリカーブはローマの司教アニケトゥスと復活節の日付に関する論争のため、ローマに行きます。そこで彼はグノーシス主義者やマルキオン主義者といった異端とも対決します。

しかし彼がローマから帰って来たとき、彼が主教をしていたスミルナはローマからの迫害を受けていました。ある時、十数人の信者



「ポリュカルポス」

が捕らえられ、競技場で猛獣に殺されるという出来事が起こります。そのとき見物していた群衆は、殺された人の中にポリカーブがいないのを知って騒ぎ出し、早く捕まえて死刑にするように訴えます。

数日後、隠れ家から見つかり処刑場に連れて来られたポリカーブに対し、知事は「キリストを呪ったら今すぐに自由にしよう」と提案しますが、彼は「私は今まで 86 年間キリストにお仕えしてきたが、一度も彼から悪いことを教えられなかった。それなのにどうして私の王である救い主を呪えるだろうか。私はキリスト者です」と答えたといえます。

この返答に怒った知事はポリカーブを火あぶりの刑にします。しかし柱にくくりつけられ、火が体全体にまわる中でも、彼は自分が先人達と同じように殉教できる恵みを神に感謝したそうです。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教ポリカーブに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。
アーメン